

アルストロメリア Alstromeria



アルストロメリアはユリズイセン科の植物で、日本には大正時代末頃(1920年代)に紹介されましたが、本格的に普及し始めたのは1980年代以降のことです。和名は「ユリズイセン」。原産地は南アメリカのチリ、ペルーなどで50~100ほどの種類があります。

大きく分けて、アルストロメリアには切花に向く品種と花壇・鉢植えに向く品種があります。フラワーショップで販売されている切花品種は栽培が難しいため家庭での栽培には向きませんが、その他にも家庭で楽しめる品種は数多くあります。

また近年、海外から草丈が低くコンパクトな品種が紹介されて、初夏の鉢物として出回るようになりました。これらの品種も家庭で栽培できますので、テラコッタや花壇に植えて楽しめます。

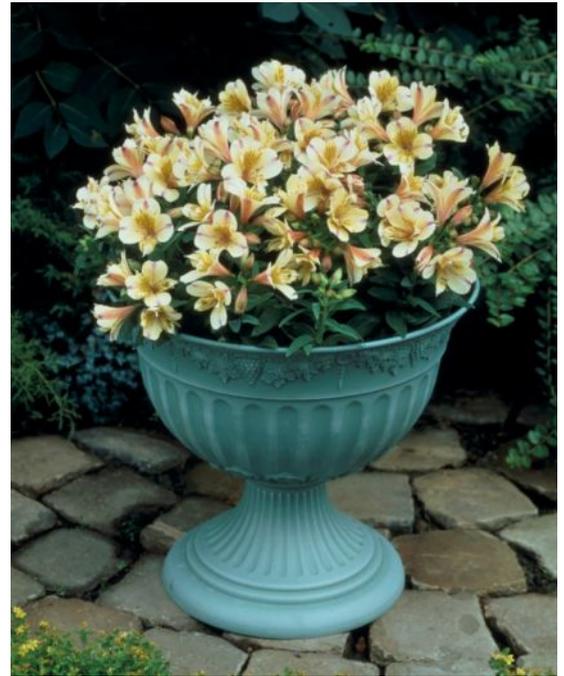
アルストロメリアは秋から春にかけて苗が販売されますが、寒冷地を除いては秋植えします。性質として、日当たり、風通し、排水がよい所を好みますので、植える場所や鉢を置くところに注意します。耐寒性のある品種では冬場の寒さは心配いりませんが、寒さが厳しいようならばバークチップなどを敷いて株を保護するようにします。



【アルストロメリア ピエンナ】

夏場の暑さには弱いので、遮光ネットを使うなどして直射日光をさえぎり、暑さを和らげるようにします。また加湿になると株が傷みますので灌水には注意が必要です。

アルストロメリアは和名のユリズイセンが示すようにその独特な花型は魅力的ですが、それよりも、赤、黄、桃、白など豊富な花色こそが一番の魅力と言えます。この多彩な花色を使うことで今までと違った演出も可能ですので、初夏のガーデンに取り入れたい植物です。



【アルストロメリア エミリー】

ぜひ、みなさんも【2013 日本フラワー & ガーデンショウ】の会場にご来場いただき、アルストロメリアの魅力に触れてください。



【アルストロメリア ピンクバード】